

「博物館みんなでリフォームしましょ！」

1月号でもお知らせしましたが、23年がたち老朽化した博物館の常設展示を皆さんの協力で、展示更新・リフォーム計画が進んでいます。2月18日には、説明会も開かれます。現在出ている展示案は下のとおりです。

考古・民族

- ・ 竪穴住居復元ミニチュア模型の製作
- ・ 化石コーナーの移設
- ・ 考古学編年表の改訂
- ・ アイヌはた織り具の製作
- ・ 近世アイヌ文化期発掘資料コーナーの新設
- ・ 米国国立自然史博物館収蔵斜里アイヌ写真展示

歴史・民俗

- ・ 昭和40年頃の居間ジオラマ作成
- ・ 農機具展示の改訂・増設
- ・ 伝統漁具の再現展示
- ・ 歴史写真パネルの新設
- ・ 江戸時代祈願札の展示と文字解読
- ・ コンピューター・ビデオ展示の撮影編集

動物・植物

- ・ 植物コーナーの新設
- ・ 動物化石クリーニング・レプリカ作成
- ・ ジオラマ音響・映像効果追加
- ・ アクリル封入標本作製
- ・ 監視カメラ付き巣箱設置
- ・ 野外観察園ピオトープ改善
- ・ フットプリント作成
- ・ 羽毛標本作製

お手伝い下さい！

どんな展示がいいのか、展示構想から、レプリカなど資料作成、ディスプレイも参加者の皆さんの協力で進めていきます。デザイン・模型作り、イラスト、日曜大工が得意という方、博物館の仕事に興味のある方も、大歓迎です。18日の説明会には来れないけれどという方も、ご連絡下さい。23年前、町民の期待と援助で建設された知床博物館が、今度は中身も皆さんの手で新たに生まれ変わります。今後の進行状況も、これから誌面でお伝えしていきます。お楽しみに！

流水の季節がやってきました。

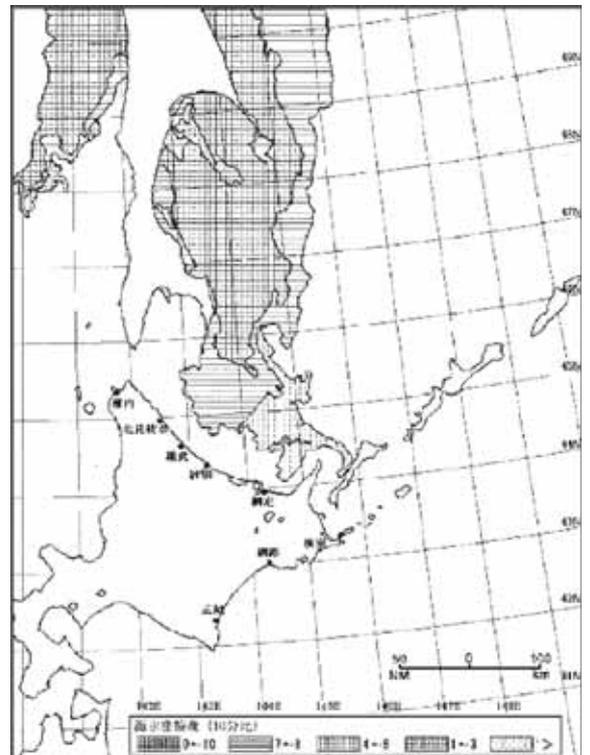
2002年・流水情報！

流水の季節になると博物館には網走地方気象台から毎日のように流水の情報がファックスで送られてきます。オホーツク海の流水の分布図の他に、風向きや今後の流水の動きの予報も書かれています。今シーズンも昨年(2001)の12/21から続々届いており、2002年1/12現在で23号目です。第1号(12/21)の図によれば、流水はサハリンのほぼ南端まで来ており、解説は「流水到来は、平年より早く」なる、とのんびりとした口調でした。それが突然あわただしくなったのは12/25の第4号です。「統計開始以来もっとも早く南下しており」となり、その後12/27、第6号には網走で1952年に並ぶ観測史上(1945年以来)最も早い流水初日、翌日12/28、第9号では知床半島接岸となりました。ところが年あけて1/2、15号では流水は稚内と同じぐらいの緯度まで戻ってしまいました。

この流水情報はテレビや新聞で見るとは違い、気象台から直接送られてくるため図も臨場感にあふれています。ファックスと同じ内容がパソコンを利用した電子メールでも届いており、学校などに転送しています。希望される方は博物館メールアドレス:si rehaku@ohotuku26.or.jpまで。内容は館の公式ホームページでも見ることができます。こちらのアドレスは

<http://www.ohotuku26.or.jp/shari/museum/>です。(内田暁友)

2002年1月14日の流水分布図



2002年、元旦は穏やかに始まりました。が、その後は一月とは思えない気温でみぞれが降ったりして、路面はスケートリンクのよう。やっぱり冬はちゃんと寒くなきゃ。と凍った道路を歩きながら思いました。雪のキュッキュツという音はいいですね。(澤口)

発行 知床博物館協会の 改2002.1.15

099-4113

北海道斜里郡斜里町本町49 斜里町立知床博物館内

TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257

<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>